

## 親鸞聖人いませずは



岐阜教区 高田篤敬 仏教壮年会連盟講師

新型コロナウイルス感染症の拡大から、3年が経過しました。また、ロシアとウクライナの武力による紛争も、私たちの生活には大きく関わり続けています。世の中が無常<sup>むじょう</sup>であることを痛感いたします。

“無常”とは、何事もうつりかわり、常であるものは何一つない、という意味ですが、また「何故？ どうして？ 納得が出来ない！ 悔しくて仕方がない！ 到底受け入れることができない！」このようなことが、いつ、誰の身にも起こりえることをも示します。

一方でまた、私たちも日々、刻々と変化していきます。“いかり”“むさぼり”“おろかさ”の三毒<sup>さんどく</sup>の煩惱<sup>ぼんのう</sup>に生きると、私たちは鬼に変わっていきます。

日々の生活や、社会での出来事をうかがうと、まさしく鬼に変わる生き方を送っているのかもしれない。

先日、長男が運転する車に乗っていました。急いでいた長男は、信号機が“赤”に変わるたびに、

ため息をつきますので、声をかけてみました。「知ってるか？信号は、急いでいるときに限って赤に変わるんだよ」反面、止まって用事をしたいときには、青になりますが。長男はそれを聞いて少し笑ってくれました。同じように変わる信号も、自分中心に考えると赤信号が邪魔になったり、青信号でこまったりと、身近に感じる煩惱かもしれません。

親鸞聖人は、お手紙の中で「今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願のお心をお聞きし、愚かなる<sup>むみょう</sup>無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しずつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となる…」とお示しく下さいました。

“無常”とは、何事もうつりかわり、常であるものは何一つない、ということです。それは、鬼にしかねなかった“私”が、仏さまにもなれる、ということです。親鸞聖人は、「阿弥陀さまの本願を信じ念仏を申し仏さまに成る」道を私にお示しく下さいました。

